

第1学年 英語科学習指導案

日時 平成20年11月13日(木) 5校時
場所 1年3組教室
学級 1年3組
(男子22名 女子19名、計41名)
授業者 教諭 米田晃子

1 単元名 Unit 8 はじめてのカナダ旅行 (New Horizon English Course Book 1)

2 単元について

(1) 教材観

本単元では、絵美、慎、マイク、ジュディが冬休みにカナダへ旅行に行くという設定であり(このストーリーの流れが unit 11まで続く。)出発当日に朝寝坊してしまったマイクと母親の対話、待ち合わせのバス停や空港での対話を扱う。海外旅行という場面設定の中で「いかにもありそう」な場面を通して、ふさわしい文法事項を学ぶ。

言語材料として、Where, Whose, 人称代名詞を扱う。

(2) 生徒観

明るく、元気がいい学級である。しかし、授業において活発に発言する生徒は少ない。学習に対する意欲は個人差が大きく、板書をノートに書き写すなどの作業も個人的に声をかけなければならない生徒も多い。ピクチャーカードやDVD教材等の視覚教材を用いた、聞く・話すことの学習には参加できるが、読む・書くなど文字を用いた学習には苦手意識が強い生徒が多い。授業では、基本文の定着をはかり、暗記と書き取りを多く取り入れている。

(3) 指導観

本単元では、海外旅行へ出かける日の対話を中心として設定されており、生徒自身が将来実際に体験することも想定して指導を進めたい。

言語材料の Where や Whose は、既習である What とあわせて、疑問詞の基本的な使い方を定着させつつ、それぞれの疑問詞をしっかりと区別して使用できるように指導したい。また、人称代名詞においては助詞の使用によって使い分けしている日本語と英語の代名詞の違いを理解させつつ、主格・所有格・目的格などを繰り返し練習することで理解を深めさせたい。

3 単元の目標

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・ Where ～? Whose ～? 人称代名詞の目的格などを用いた文を進んで発表したり、話したりしようとする。
- ・ 積極的に言語活動に取り組もうとする。

【表現の能力】

- ・ Where ～? Whose ～? 人称代名詞の目的格などを用いた文を適切に使い、英語で話したり書いたりすることができる。
- ・ 自分の意思を、率直かつ丁寧に伝えることができる。

【理解の能力】

- ・ Where ～? Whose ～? 人称代名詞の目的格などを用いた文を聞いたり、読んだりして、その内容を正しく理解することができる。
- ・ 教科書の本文を読んで正しく理解することができる。

【言語や文化についての知識・理解】

- ・ Where ～? Whose ～? 人称代名詞の目的格の形・意味・用法を理解し、表現できる。

4 単元の指導計画と評価規準

学習活動	時数	評価規準			
		コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
Part 1 ・Where ～?	1	本文の音読や言語活動に意欲的に取り組むことができる。	Where を用いた文を正しく発音し、書くことができる。	本文の対話文の内容を正しく理解できる。	
Part 2 ・Whose ～?	1 本時	本文の音読や言語活動に意欲的に取り組むことができる。	Whose を用いた文を正しく発音し、書くことができる。	本文の対話文の内容を正しく理解できる。	
Part 3 ・him, her	1	本文の音読や言語活動に意欲的に取り組むことができる。	人称代名詞の目的格を用いた文を正しく発音し、書くことができる。	本文の対話文の内容を正しく理解できる。	
まとめと練習 代名詞	1		人称代名詞について理解し、正しく書くことができる。		人称代名詞について復習しそれぞれの違いについて理解できる。
Listening Plus3 海外旅行	1	搭乗カウンターでの対話を意欲的に聞くことができる。		搭乗カウンターでの対話の内容を正しく理解することができる。	

5 本時の指導

(1) 目標

ものの持ち主についてたずねることができ、人称代名詞の所有格を用いてそれに答えることができる。

(2) 本時の評価

評価規準	具体的評価基準		
	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する生徒への支援
Whose を用いた文を正しく発音し、持ち主について尋ねることができ、人称代名詞を正しく使ってそれに答えることができる。	誰の持ちものなのかをたずねたり、答えたりすることを mine や yours, Tom's, his, hers などを用いて正確にできる。	誰の持ちものかをたずねたり、答えたりすることを mine などを用いて適切にできる。	誰の持ちものかをたずねたり、答えたりすることを mine などを用いて適切にできるように繰り返し指導する。

(3) 構想及び個に応じた指導の工夫点

- ・「読む」活動と「話す」活動の目標を具体的に示して、見通しを持たせて取り組ませる。
- ・実際に教師や生徒自身の持ち物を利用して、興味をもたせて繰り返し練習を行い、活動の意欲付けとする。
- ・グループやペアでの活動を通して、英語を話す機会を多く持たせると同時に、教えあいながら英語の苦手な生徒でも活動できる機会を持たせる。

(4) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点	○評価【方法】 ☆支援の手だて
導入 5分	1. あいさつ 2. 既習事項の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・英語であいさつする ・前時の確認 	<p>○マイクがカナダ旅行に出かけようとしていたことを思い出せたか。【観察・発表】</p>
展開 40分	3. 本時の学習課題の確認	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">誰の持ちものかたずねたり、答えたりしよう</div>	
	4. 新出語句の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の場面に即しながら導入する。 	<p>○新出語句の意味を理解し、正しく発音できたか。【観察】</p>
	5. 本文の内容理解と音読	<ul style="list-style-type: none"> ・黙読させ自分の力で内容を理解できるように「リーディングポイント」を与える。 ・音読練習を行う。 	<p>○本文の内容を正しく理解できたか。【観察・発表】</p> <p>☆Cの生徒への支援 「リーディングポイント」を与える。</p> <p>○本文を正しく音読できたか。 【観察】</p>
	6. 基本本文の定着練習	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や実物を使用しながら基本本文の置換練習を行う。 ・ペアになって練習する。 	<p>○絵や実物を見ながら正しく発音しているか。【観察】</p> <p>☆Cの生徒への支援 発音の仕方を教えながら何度も言わせる。</p>
	7. 「話す」活動	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身の持ち物を使ってグループ練習を行う。 	<p>○お互いに正しい英文を用いて会話できているか。【観察・机間指導】</p> <p>☆Cの生徒への支援 発音の仕方を教えながら自信をもって言えるように励ます。</p>
終末 5分	8. まとめ 9. あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・基本本文のまとめ ・基本本文をノートに書く ・自己評価で本時の学習をふりかえさせる。 ・英語であいさつする 	<p>○正しく言うことができたか。 【観察】</p> <p>○正しく書くことができたか。 【観察・机間指導】</p>